

第 1 学年 * 組 国語科学習指導案			
平成 29 年 * 月 * 日 (*) 第 * 校時 教室 指導者 根本 亮輔			
育成する国語の能力	短歌の内容を適切に取り取り、論理的に批評すること。		
単元名	短歌・俳句		
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に音読に取り組み、それぞれの歌独自のリズムを味わおうとしている。 (関心・意欲・態度) ○ 短歌特有の表現や内容、作品に対する実際の批評を適切に把握し、自分の立場を明確にして批評することができる。 (読む能力) ○ それぞれの短歌に用いられる語句の意味や用法及び表現の仕方、修辞法などを理解し語彙を豊かにできる。 (知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のイの(イ)) 		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	積極的に音読に取り組み、それぞれの歌独自のリズムを味わおうとしている。	短歌特有の表現や内容を読み味わい、自分の立場を明確にして批評している。	それぞれの短歌に用いられる語句の意味や用法及び表現の仕方、修辞法などを理解している。
取り上げる言語活動	二首の短歌を読み比べ、内容や表現の仕方について、批評する文章を書く。		
題材(教材)	「詩歌 短歌」(筑摩書房 国語総合)		
単元(教材)について	<p>(1) 生徒観：物語作品においては積極的に音読に取り組み内容把握に努めるが、文語文や複雑な構成の文章等に関しては内容や心情の把握を困難に感じる様子である。意欲的に授業に取り組み、具体的な指示を踏まえて意味調べ等の事前学習を行うことができる。本文の言葉を使って内容を説明することはできるものの、語彙力は比較的低く、別の言葉で換言したり、自分の言葉で考えや意見を書いたりする事が不得意である。また文章を書くことに対しても苦手意識を持っている生徒が多い。</p> <p>(2) 教材観：古今様々な時代の短歌作品を扱うが、その多くは短歌特有のリズムを持ち、音読に意欲的な生徒との相性が良い。いずれの作品も平明でありながら基礎的な修辞表現を有しており、短歌に関する知識を学習しつつ、適切に内容を把握した上で共感的に読むことが可能な教材であるといえる。著名な歌人が多く取り上げられているものの歌人 1 人につき 1、2 首のみの限られた採録となっているため、補助資料として実際に出版されている歌集及びそれぞれの採録作品に対する複数の立場からの批評文を提示する。以上、修辞技法等の基礎知識を十分に有している点、文芸として生徒の関心を引きやすい点、一定量の第三者評を備えている点から、本単元の目標及び言語活動の達成に資する教材であるといえる。</p> <p>(3) 指導観：短歌に用いられる基礎的な修辞法等について指導し、それらに対する実際の批評文を踏まえた上で、自身の立場を明確化して批評文を書く言語活動を取り入れる。ここでは自分の立場を明確化しやすくするため、1 人の歌人による 2 首の短歌を読み比べるという形態を用いる。文章を書くこと、短歌を読むことが好きな生徒や得意な生徒に対しては、関連作品の博捜や実際の批評文に対する反論等発展的な課題を用意する。また不得意な生徒に対しては、学習内容の振り返りを促す対話を心がけ、定型の書き出し等を示すことにより言語活動の達成を図る。</p>		
指導計画(学習計画)	主な学習活動	主な評価	

本時	1 本文を通読し，語句の意味や作家について確認し，それぞれの短歌の修辞や特徴について学習する。	<ul style="list-style-type: none"> 本文の音読に積極的に取り組み，定型詩特有のリズムを味わおうとしている。（関心・意欲・態度） それぞれの短歌に用いられる語句の意味や用法及び表現の仕方，修辞法などを理解している。（知識・理解）
	2 学習した短歌に対する実際の批評文を読む。	<ul style="list-style-type: none"> 賛成できる点とできない点を明確にして実際の批評文を読むことができる。（読む能力）
	3 二つの作品を比較し，批評文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの短歌を，区切りに注意して正確に音読し，定型詩特有のリズムを味わおうとしている。（関心・意欲・態度） 学習した短歌作品について，自分の立場を明確にして論理的に批評することができる。（読む能力）
	4 お互いの批評文を鑑賞し合い，意見を交換する。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの短歌の修辞や特徴，作家について学習したことを踏まえて，相手の書いた批評文に対して論理的に意見を述べるができる。（知識・理解）

本 時 案 (第 3 時)

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの短歌を，区切りに注意して正確に音読し，定型詩特有のリズムを味わおうとしている。（関心・意欲・態度） 担当の短歌について，自分の立場を明確にして論理的に批評することができる。（読む能力）
-------	--

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時の学習を振り返る。		
自分の選んだ作品を比較して，論理的に批評する。		
2 ペアになって本文を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に対して，区切り方や漢字の読み方が適切かどうかを確認しながら聞くように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの短歌を，区切りに注意して正確に音読し，定型詩特有のリズムを味わおうとしている。（関心・意欲・態度） 〈音読の観察〉
3 批評文を書く。 (1)「論理的な批評文」の定義づけを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の立場の根拠となる部分を明記することで論理的な批評文となることを説明し、『最新国語便覧』（浜島書店）を用いて引用の方法について確認する。 	
(2)選んだ作品に対する自分の立場と，その根拠となる部分をメモする。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習の記録(ノート等)を適宜確認するよう指示する。 書き込み用に教科書の該当ページの印刷を配布する。 	
(3)メモを基に批評文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 共通の約束事として段落構成と，それぞれの段落の内容を指定する。 取り扱う歌人の歌集を用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 割り当てられた短歌について，共通の約束事を踏まえて，自分の立場

<p>4 次時の学習内容を把握する。</p>	<p>○ 次時，完成した批評文をお互いに読みあうことを予告する。</p>	<p>を明確にして批評することができる。 (読む能力) 〈批評文の点検〉</p> <p>〈努力を要する生徒への手立て〉 定型の書き出しを例示する。</p>
------------------------	--------------------------------------	---